

天の時はいつ?——・黒河内 康

(日本貿易振興会理事)

一寸変った標題で恐縮だが、いわば下の句たる「地の利、人の和」を省いたものである。最近のアフリカの事柄を見ていると、なんとなく、この表現が心に浮んでくる次第である。と云っても、別に深い意味合いをこめているわけでもない。

アフリカが植民地から脱却して独立してから、様々な方向付けで相当の年月にわたり国造りに盡力してきた。その成果は多岐にわかれるので、略言のしようがない。ただ、日本にせよ、アフリカにせよ、人間社会の営為には成功、不成功のあざなえるなわがあつて、或る程度の長さのあとに新しい方向転換があると観じた方がよいのではないかと感ぜられる今日此頃である。

眼に見える要素としては、人の和があり、地の利がある。独立後の政府と民衆の間の総和としてのイデオロギーが期待ほどの成果を挙げず、社会・経済的地型が変るに伴って、新しい流れの契機が生まれてくるのは当然である。だからと云って、ここに説明不能ではあるが「天の時」がないと大転換にはつながらぬものではあるまいか。

いわゆる構造調整政策がアフリカでも何ヶ国かで実施されてきている。それなりに積極的成果も報じられている。これが直ちに、人の和と地の利に直結して、大きな舞台まわしになると思ひこむには年月が足りない。しかし、どこかに天の時も訪れるのではないかと考える要素もある。若しそうならば、三要素が有機的に働くときに、アフリカにテークオフのスタート台に立つ国もでてくるだろう。それを期待したい。

地の利に特に注目すれば、都市部の変容と都市住民の持つ活力とそれを如何にチャネリングするかが問題だし、それが進展する先の方に天の時のほほえんでくるのではないかと、思って、注目していきたい。

(9月14日記)